

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名		先端基盤技術研究開発の総合的推進		担当部局庁	研究振興局	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度		平成15年度～平成22年度		担当課室	基盤研究課	基盤研究課長 柿田 恭良		
会計区分		一般会計		施策名	X-7 新興・融合領域の研究開発の推進			
根拠法令 (具体的な条項も記載)		-		関係する計画、通知等	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		次世代技術の基盤となる潜在的な可能性を有した基盤研究の推進方策に関して、各機関や学会等における動向調査を行うとともに、将来重点的に推進すべき研究領域を特定や当該科学技術が社会に与える影響について有識者を交え先見性のある検討を行う。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)		幅広い分野の研究者に加え、産業界の関係者等で構成された会議において、数学・数理科学と他分野の連携・協力、光科学技術振興などの新興・融合領域分野の研究開発の推進に向け、現状の問題点の抽出や事業の在り方の検討等を実施。 また、数学・数理科学や光科学技術に留まらず、次世代技術の基盤となる潜在的な可能性を有した基盤研究に関する情報収集等を実施するため、国内における各種会合等への出席や研究成果の応用先である産業界への調査並びに先進的な取組を実施している諸外国の動向調査等を実施。						
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)				20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
		予算の状況	当初予算	4.0	4.0	4.1	-	-
			補正予算	0	0	0	-	-
			繰越し等	0	0	0	-	-
			計	4.0	4.0	4.1	-	-
		執行額		1.1	1.2	2.7	-	-
		執行率(%)		27.5%	30.0%	65.9%	-	-
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
本事業は、基盤研究の推進方策に関する検討会や現地調査により今後の各施策の推進に資するものであり、アウトカムの指標の設定は困難である。		成果実績						-
		達成度		%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
①基盤研究の推進方策に関する検討会等の開催実績数 ②基盤研究の推進方策に関する現地調査回数		活動実績 (当初見込み)		回 人回	1 46	1 28	3 35	-
					(8) (24)	(-)	(-)	
単位当たりコスト		①554(千円/回) ②31(千円/人回)		算出根拠	①単位当たりコスト=(委員等旅費+謝金+庁費:1,662千円)/(活動指標①の回数:3回) ②単位当たりコスト=(職員旅費:1,072千円)/(活動指標②の人数:35人回)			
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	計	-	-					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	-	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>本事業にかかる経費は、文部科学省において直接執行しており、会計規則に基づき適切な処理に努めた。数学・数理学や光科学技術など、次世代技術の基盤となる潜在的な可能性を有した基盤研究の推進方策に関して、特に現地調査等を積極的に実施した。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
<p>平成21年度レビューの指摘を踏まえ、平成22年度をもって廃止の上、他事業と整理統合している。</p>			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

【A】

文部科学省
2.7百万円

・職員旅費 : 1.1百万円
・委員等旅費 : 0.9百万円
・庁費 : 0.4百万円
・謝金 : 0.3百万円

} を含む

数学・数理学と他分野の連携・協力による研究や光科学技術振興などの新興・融合分野の研究開発の推進に向け、現状の問題点の抽出や事業のあり方の検討等を実施するため、幅広い分野の研究者に加え、産業界の関係者等で構成された有識者による会議を開催。

また、数学・数理学や光科学技術に留まらず、次世代技術の基盤となる潜在的な可能性を有した基盤研究に関する情報収集等を実施するため、国内における各種会合等への出席や研究成果の応用先である産業界への調査並びに先進的な取組みを実施している諸外国の動向調査等を実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

A.文部科学省			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
職員旅費	国内動向調査	1.1			
委員等旅費	「数学・数理科学と他分野の連携方策に関する評価検討会」等へ出席するための旅費等	0.9			
庁費	「数学・数理科学と他分野の連携方策に関する評価検討会」等の開催に必要な経費	0.4			
謝金	「数学・数理科学と他分野の連携方策に関する評価検討会」等へ出席にか	0.3			
計		2.7	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)